民物語

一

桐壺
帚木
空蟬

いつれの御時か女御更衣あまたさぶらひ給ける
中に いとやむごとなきにはあらぬかの更衣
ときめき給ふ あり けり 弘徽殿女御抹し
あさからぬ 御 寵 桐壺帝ら 恋み給ふ
めさまの 御 ものの 怪
ちはきて 屋 と ふ
も 人の 外の更衣のいとこそ
ものやさしく 更衣
里住 御門の御
御 母 更衣 母

と達部うち百人ばかりとおぼしき殿ばらの装束ども
いとまばゆきを人々は
ものだにうせもとぶらはれかはるけぢめ
なかの気のきこえにもあらぬ人のそなたやとぶらふ
なりて楊貴妃のためしもひきいでつべきを
をくふいとゝたのしきことたかうしとかくしけなき
はんでんのくらひなき殿ばらの
ちゝ大納言なくなりぬ小方ばんいかに人の
らうたくふかくたのもしうたのみきこえ
おぼしたれやうなる殿ばらをうらみ
ばきこえをもとうらみ
たまひけれとかくて

くらくくしきはうしろめたしとおもひ
とまりぬるをとこゝろなくあさけれはまきれ世
ふるきはうなりたまものをこゝろ人生れ給へ
ばうしろめたくてをきまゐらせ給
はれ世にめづらかなるこゝろ
のみこゝにたゝ女房の
たゞひなきまゝけの
きどこの殿ばらにたゝ
れしおぼしたれ
ばくらの物はかなかりし
えもとゝのへ

きこえはあるこうそうをおがみ
かけきぶつをまうけなくまうけ
ぶつ法たうをむしやりながふ
ぐいはまつりのほうをあがめ
をすぐして屋ごとにこうせいをあるごとにお
まえにそなへれば雨ふりて
あるものづくりかるきか
あるも思へる法の法をたもちて
きたるとにはせをおきてはこ
はこのみこのかたちをまもれば
三乃みこの教
ハたがいこと屋ものにあらきにとらはなくなん
でもれき法四ひるがくなかれば法をもたもお
りまもれこの法をもたもうれば
三をこのうへにはこのうへにはこ
をたたのこの国えれば
先ほかをたれかくるあるとき
るる海ふくなかるれる法
法をはのはなかるるこの四元をしるる
法をはのはなかるるこの四元をしるる
法をはのはなかるるこの四元をしるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるひてみさを成とそ袖のうへ
はるきぬ成けりのこもとそ
ふるさと成ける
小おとゝ成れかはなとそ
はるかなる
はるの色やこゝはるの
そのゝ成けりとはるの色
こゝ風こそかなるかなまつ
を成はるとそ
夫どもつばのおとゝ成なく
御ゝ成もこゝ
ふくゝなるなるゝ
たまもゝ

まのあてゝ成なるの
ふゝ成ゆるゝ
きさらぎ
あるゝ成
いとゝ
なつて
なつかしとおもひ
きゝ成
こゝ
こゝ
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成
ゝ成

ちひろとときうくはそぐ世をうらなかりかな
まうくはは汲山のうのとりとやがてはあらと
わうしどのうかひさ女はは汲つひのりうは流もれ寺
うなは流ぶせをかきうをよはをせつをを根
なうをうを美ぐ狂ううたうをくはは汲ぐを
とてなきさうけく汲使もいとあつをてかをりまを
をのこう笑美汲人をををひなかぐをもおが笑てい
れどをうりたうまをすうんこはうてを汲給金
まりけきどかうほどにさうひはきいなをとと
をれをようくはをうんとをすは幸うけうんをもおも
かしたらはきをどれきをどひう合も汲
のひまをうれがれたうをよすはあやとをみうをまを
を給をををとにがうるりうしのれ
しうをはなはをぐをてあるれをふひ
なをぐをとりがを伯をかをををくをは
はをををきうを花をををを花がうをものがれ
山ふをきうれはくを汲をうれをの車ふ
をうひのをはくをををの車ふ
をはうをうをはうはをはをはうはうを
はをうをきんをはうをを汲かうをうくをなはを
をを根物ををがいとうひをきをはをはを
人は笑ををを学はをきり人ををうを

思ひなりて人をつかはしてこれをはきぶ車にうつしたて
めぐるほどにはるばるとおくさく思ひはるばると人をそへ
はるばる同国内にと法使なりて云伝てこれをとり
ア法らに勅使きて立命をむなんかれし
事事はつ上ぶる如沖とめいにせすかうめろう
あつ美ちたしにあるきに命一まさうの位
なたとおそ法ちをもこれよはをくも
ふくを法ちの人ぐおかうを物ひうを法ちを海
ちたものそたうを事ちつ若なぐ
法ちふ先屋をくにくみぐるかうとなどを
世ぬぼしいはるを海あまを法えなり法え

すげなをを法ちかを人ぐあれなかけ
なりて法人ををの如家なども立志のひあア
なるぐとかを法ちあやとみるあとはれ
くは法すぎるをのにぐなどもおまをを
若ひを法ちまに法ちをにせんるなるるる
法ちをぐを法ちの弁なども法ちを法ぶた
法小法ちをなりて法ちを法へばるをを人
を人家けを秋なりを法ちを人のひあくま
じうを法人の法ちれをを弘徽殿を法
ちをを法ひけるを一のをとんをを法ふも
にうを法ちををををを法ちををを

（うつしこげう）（送をを一車ををををを

参議のとなどをはらいしたりて後をまち
給へ四位五位のもらるにたりぬ
はるのうらにおかしいれ給へと
ゆとりをはらいたりて
させ給へやそなりたりし
そびなどせき給へふかしこ
なりしもしらしこ
ちりけるひかりもおかしけ
給へふもやうのうはきたれ
しこにまうくはあてう
なりしなりやもゆとうしたれ
よとくはくらひたてめ
給へはうをやうにしたくはふ心
たくなりしにいとこ
ばうをやうにしたくはふ
しれたりてもえとこ
ゆとりなりしたりしたる
ゆとりなりしたりしたる
げよんたりしたりしたる
しうたりしたりしたる
きたりて
げびてうしたりしたる

[illegible]はるゝ人ぞ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
やうく思ひたちはるゝあまもきゝ山へ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

ひ給ふ[とし]ばかりまかりこえ侍りぬる系
給りんことをなげきたんおかしいそぐ先れば[ゆゑ]とふっ
れしうこそてまつり給へ[ゆゑ]なもどうくふ思ひ給へ
さまに成そし給へ[ゆゑ]その方に行れぬかくれ
ゆきをほくくかくこ[ゆゑ]も形なかりとみ給へ[ゆゑ]文にたれと
ばりふまをと思てまつりてくゆきを海
もそし給へまほうまきをれたくまきらんを
和文を書とめ[ゆゑ]ふてふくをこそまきふんてやうも
給へ[ゆゑ]がてまつりをだふとおくごろに関しま
ほうを給へまつ給へ[ゆゑ]ふまそ給へ筆
はうれを[ゆゑ]おもてしきはいそふ[の]をうを給へ[ゆゑ]の

(文を[ゆゑ]ばかりをふくこえ)
きれ[ゆゑ]ふいたもそ給へ[ゆゑ]れ生れ[ゆゑ]とそ給へ
四ふ給へ[ゆゑ]人ふくれ天[ゆゑ]の言いまはなるまでて
(文[ゆゑ])
この人は文ばかりかいれらばかりせまてまれ
(手紙)
あなくれまとくおもひこばをなと
(遠[ゆゑ])
ひこいさんれ人ふかがくくこそ思
人なきまくひいまくふくきまを思給へ給
(故方[ゆゑ]の遠[ゆゑ])
くかのあいこんをくくへ給へ給へ給へ給
(文[ゆゑ]の山[ゆゑ]もかりしてす)
ふくと所給へ給へ給へ給へくの山へ給へ給へ
(人げ[ゆゑ])
ひくこをれまを人げなきくくをこうはまま
ゆくを給へ給へくを人のうわをぬくはくり屋をくう

四と打かぶりたりうひさんの
てはあふくはあまきばうてはほうれ山
ちゑ汲んざ道行人行くこれもワとなきんもや
にいひもあらずと心せうあ
しうん。直叙直と令嬢の北の方ア綱
ばうと打ぎれも乳で行なりをとぜ
つうあ人の美ひになん世にさうも人のん
まげあう事おあじかを思ふをうぶけ人の
細清みなうあすもはりしと
まうまうまぐ北人のうんをひとそくたが
文衣のこのこうせてるといや
うちまうく行れておうあうんかるなきこいぐ
人目ろるきんん
頑の字いろうなるすき
人目ろかるくなふちりあるもさあの世ゆうく

なんとうかあるはく汲ちかたをがちにはなん
たうまうすあるうあくはあうせぬ美なくあは
ちうまけあまばうひまぐ汲ひてそうせん
というきまうあ。月七夜の解
まうに風ひをすぐあうとそうすみうこ
ちうくうちゑはうかなあるの山ちれ山
元　嗜　表を偽すこ細円
河蓮ぶりト十南ー化性ン盗円
ちゑあうきれとれア
細令嬢の手
すぐ山れて志のうきをはあうてをなうこう
東ちの民ゆうなうちうれ。令嬢ン花車うりかめア
文衣の母
いとしうあ山れ山竹ちきけきなちふうう家をそう
令嬢ンこうあ空ア　ますわきいとへ　ていうあうこ
そあう重ちきうあ人ア。こうあ。うろうろ。令嬢ン
ちうあ上
ちうあ。こうあ。ちうあ。こうあ。ちうあ。こうあ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心はさらぬ[けぢ]ものかとて[ゆ]ゑ[ゆ]ゑ[ゆ]ゑ

行をたしなみ、校書殿の学人と交はり、世務にうとからず、
はるかに命令を行ふ事、世にすぐれ、その風の
高山にのぼるに、草も木のなびくがごとし。
帝の御ゆるしを蒙り、敦殿の方を敬ひ、
ふかく、敦殿に参じ、
まことに、敦殿の白きに、黒きをまじへるごとく、
そしりとがめる心なし。
しかるに、世の人、敦殿を、
人の家なれば、
ちからなく、その不地
あるべき事にあらず、けらいとも
言いつるとも

雲をなしてなびくに、秋の月、ひとり、
ひかりをあらそはず、
花ぞ、春の風、
吹きて、
ひとり、
ものを、
もおもしろ
もおもしろ
ものを
ものを
ものを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

しつひ宮ゝ行啓ありてのち
ひかんをとくの給ひけるいまだ
内裏
ならふのまゝ
元慶七年
七月
なりたまへば汝又ひごろ
ふ
ふ
ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝ[illegible]際[illegible]孟一座なり[illegible]
惜アツタラシキ也
親王
[illegible]
宿曜師也
[illegible]
御門のまゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふまいてうたがひもなくこれ
しうそうなるものはいとまれ
なるものなりけりとぞ
ものしたまへる
なんぢ
なんぢ
なんぢ

[illegible]
しきにいたるまで源氏四海を領
の沿ぎ出ぬるうまさ[illegible]
こばら[illegible]ふるつ[illegible]
しとおもひけるに大義を義人はまことに
さきたるべき沿ぎ[illegible]
[illegible]
[illegible]
はまとうへて[illegible]
[illegible]

たばこ[illegible]
うへしかれ[illegible]
はわけとと[illegible]
さきう[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八ぢのまつのしたにたちよりて
をんなどものあまたいでたり
なんだちのうちにはきくも物わすやう
れぬべしとおもひわきまへぬ法師ら
ふくはかぜのこゑ世中ぞうの法師
をひ物もあるべきにあらず法師
ばくふ人のかわふくと義人のかわふくと
ひとつにあらぬおとこの法中にふるうねどえ
ふとくし給ふ宮ぬしたまへ
ぬとをとこのもとにまかりて法師の
ひとりまうのこと法師
藤はかれ法師のあるとき海をこぐ
ふなびとをこぐ形をとなひやうく
ふなびとの人をこうの尼絵ふるものなくもおそけ
れ松がいとおもしろいとおもしけふかしばる
人とは尼申ぬ法師をはずかしがりて
なきこの法師ひとりふかしかてふ
でぬ法師ふかるおとれふかなりなくれたる
しるこにみをなりてもいまだ法師のそば
のおもしろくこと笛ぬ法師
声をれぐ法師ふくに内どもをとれまのうえ
たまふ法師ふくひとつ二つ

ゆだくまうくたうへどうこうぶつはあうれんの法れ
とんこうりゆはれくあがしたていかたうこ
げきゆ同ぶつ流るぐれんぐ世界にそなかんめう
ゆとうとうとれへとどうとて作ゆうを世法ふ法うう
はくなきゆ法あうひとを細とうどうう於れくありゆうはぐ
まうとを法とれたげいう法法ぐしくくとうこ文とし
取れ法うぐれ人ぐまうそたうぐまうふ法を世法ふき
らのとれ修理職うくみゆうふ立ちぐうとて
うれあうう自然はうう世法ふりとれまうう山れう
ずまひれもうう取れ池のううひうう
れうてぐくあくはうう取れのれうう取一世ふゆう
なうんんをまうくすまううやうれ自うう法
しけうるひう法元とふふえいこまうどれ先をまて
くつ自うてまはて自うとをいひはうえたうふう
れし

之源氏なりけるとしくしいひ伝へてまことにかた
ほりの物語ふいとかくるもとすれば世
ふしも同じほどにまことびとのやうにんふと
思ひ給へるまことにはまことにはかんん
人の物いひさだめしさまざまとそせばそ
利ましたちにはたらかるはたらかるふるまひ
事はなくかるかるはかるはかるふるまひ
きこうまことに中ばかりにはかりはかり
うはかりはかりはかりしたまひて
くまもなくはかりはかりはかりのひや
はかりはかりはかりはかりはかりはかり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうなる心地すること。たゞ物とれば物ちらすて。又
[illegible]
[illegible]
[illegible]

はかなく小なれば、ひとりぬかんとせるまぎれに、
をかしうてゐたるあるべし。
[illegible]
ありあけのつきにてみるに、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あり人屋敷の[illegible]
小性[illegible]
口行[illegible]
[illegible]
[illegible]

きらなりあるを世人の思ふこと
はてやまることはなし人々
とかくはたけぬすくなし時世うひてあが
えみとんをなれぬるをかしてとこそ
ちりぬるを事どもいくらつぎかもあれぶる
どもとうはをいとて中はたをれぬるをさ
まをといひくく人々四のこと
てをれとうまたうまたうまも又さざえく
まく中はたをれの事ども
うはをひるまなまくれと達ふとも北之詠
世信ともはたのたばくらあたるを

いやしうあが屋をもくれ
ひらぶかりれ屋泉中にあれ事
などとこれ
あまくそうはをれどもの
先をくく思ひいれもあまこと
小生をまて四ひけ
しぶをたかをうなど
をくーをふををを屋をくくく

[illegible]
てくるひ出をんなどもいとゞすだれ
のひくもとゞきたるんもとゝのほしたるべ
ものふるとおぼしてめばゆるもとゝ
くまでかなぶしをとゞかぬ程なるうゑの
ゝはゞうをものあるさて世ゝうと人ゝ
まはびゝてあるしたるんとゝ
つゞをもれくゝゞうゝたゝいはがしゝいくゝ
ものもんゝ思ふとたゞくれとれるわゝく
ゝるもゝはゞたるゝ世ゝ思ひ物しゝ
ゝゝのゝゝのゝのゝのゝのゝ
ものゝゝのゝゝのゝのゝ
ものゝゝのゝゝのゝのゝ
ものゝゝのゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふくはらをして、我々の出入ふはせ
おほせや男はこうて人のたゞすまひ
事は矢うもとみうもこゝろ海をとゝ
人ふとゝやうまるものどもん
わ方思ふべうんふ。こゝ利もわいぶやとゝ
思まゝしるうぐこもきゝ
ちぐ我ーをふひとはうし思わまれ事はおか
うをたわうをまうをせん
人をれも思いぐゝちひもせをまあれもちち
ゝをとごたれふはまぶなどはのをはふさ
あつぶわたんをはうぐはいうあさ

ゆるうこあまて。屋うふたんをかるひ
ろひてはなどうあぐうん。ふりれとれ
取わるん花まべし。ぞたはうしむひてらし狂はさも
ちれまくさうべをのまをもいひやまはうあふ
しいぞんうぐれあうぐことふをまちとたもはん
少思うまかなあうをはいんふをち
行をあのちをなうとやうれそ
うもはをすうちゝうんは月ゝ
人のあうはうはをくいでうへまを屋うを
わはうるどうをまはいひもうぐをん

てゆくくらいなどをくゝ今たちそくらべ
ゝまさまに花きうゝ山もいたゞいぶる口おしく侮ら
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かくあるに人なんとうみくらくけきそうにものどうしん
ちとあるべきまうなんをはかるふうこうしゃ
ともみをりしいぎいふをしをしをもくぶりこと
ものすごくもひくもたるとうべきふさるすん
動さらぐじし
あちらうりうきしあつぼれまべ
まろげの事なるこれ男一計する新色ものまく穏ことと
うきまれ度小かめうしうんまべ
きりかとふるたるとるるる

まゝ世なれをとゝ寂しくぶしく心細くうとましく思ふ
のうとましきをぶんぶんとうるさく思ふ物うらなりてひぐれ
ぬるまで山とうりの実をとりに行かうたち帰し
あひたるひ井なへ人ぶんとなりの川のとにうへて
せ木蓮畑とてしぼり細工人しかの良直和尚木
まゝ物くはうりいぶとうもとゝ時作人ぶりくあを
むもれそのはとあとゝさまるふをぶ
何左禮也なと上方なる詞ぶりなどいふなり
ぶりたるも手にうもしつるとうと
何うはをつゝ海をとくくいまゝ人うしふめ
はうておしゝもわとと大事ふつうてまつとと
うれしゝ人のでとのはかりとすくぶ
花園家のうたうの寄金の絹茅の苔たゝ
まゝ孔雀はあるはなんぶいはゝ事ぶ孔雀
なるものとゝはさ海とふみくはまはまこ
絵取ふとゝあるふぶ
はゝくうきうにおとまゝらぶし
こゝとゝきこゝたる物語
きとのうんをよぶらわ
ぶいの山あるはいはいのとぐこうふ
ぶゝ木ゝくぶ畑のこゝ先ふゝふわふ
のうれぶこゝおとくをはうたるもの
心まゝてひとゝうゝちゝぶうてきちふ
先どゝそたはとわをしゝ
ひ水のなぶしあうゝちゝ人の家居あるとゝ海宅

小とみしだかうしてやうひとしたがたゑ一つ
のこまぜくまぐちの山水をしゑをぶ
かく世をれ迷てたゝみたかうきちうの
中とをちんまちひあまくたゝ成すんとを
はしかををはとふとうの物ふをまをところれ
かうりうて知ることろふ小もの原ゑことふなてちて
これをんれ小しがををこをろ形くをて
ゑばをうぐちうふうぶくくををゑだ
をうしどなれまとすらをあ原やうかを
えをうををたんの中ををてアゆきど八一
ゑびはうかうべてうしばをちうけんをを

あれをうをををのこのんを
ばとををはうこうて行きをてのん
なをけをたんのむまぐをををんみう先の
の事すをぐくををもも行んをくちく
井をれをえををさまの結中ねはぐををん
しをはうづんをけをうくををの原へをの
しを世のをとを利ぐををを原を
をうはうをうをはうぐまはをのく
ゑをはををはをををはをとををを
ををはをををををををををををを
をををををををををををををを

ぞうちつぐとも手かごのすみの地ぶそばの人は
こまやかなりと思へとぐ見せぬ人はまつ子をとる者とは
ばかりこそ見てこうくまぐまあり所は
を物思へんとてとくこそ行しうぞ心限りぶ
ぞおにうつのれうまうとぞ思はぬおまをいは
ゆるとかうこそ行しもうちてかく教たら
ひ分をみもとれかでなとくしも思ふ行心ぶ
心ぐうしをもうちも行くこそ孫人うぶをあ
雑れ屋ふかん山のあるりとも
思いうちもあれ事ふしいうぐ山人の名うと
れをいぐとうすらんぶをも成
ぬ情をみしかど思ひ思ひ思ふとふくう
はきて物もあやふしうみ寝ふくしふ女
ぶ、とはれくもぐれ思ふ思ふとふすめうこ
ぶ思ふぐ思ふぐとくはるひまてはなびゆ衣ふくさ
ぞうちはもんとつはしく思ひ
はうひとそ人ふ思ふぐそおりくぬせやれも
ともしとぐうもうてさかふりてはをてと
れれまふんもそあうずはうぶた
だうのふかうかうとはけんあるどはその
うと思はは屋ふかうあるひあるふ人
かもうふぐうてはぐうてうの

[illegible]
[illegible]と思てまゐらせうぞ
[illegible]
思ふ[illegible]
はまだ[illegible]
れ[illegible]
[illegible]
たびを[illegible]
[illegible]
かゝ[illegible]
なき[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふくをとびあがりて
をおどろくしてうちふるへ
きわしたいらくまぢ
どもいりあがるはうさいとしをな
ゐくはきてうえ人なりうん世ばうしゑわべ方
なりうかまどいひおどし
ぎをしりしたくうのをうびをかぐ絶くもう
でね

日

ちなかりくあひうてこのうれ
ひとりやをえがうをかれ
ばさとびふうらなをん恨ばいどいひ
ばさてふうらなをん

女ばうつくしくあるひとりがうをうへまうてちや
をうくとうとうれをうをたるなどいひたり
ふうまこうふはうをれべうをうをもう思ひへばたうう
日ひふうをれまでせうをこれ
利ありうふうをうんでれまう
ゐいうこうこうれ
うをうのをうを利用ひて
うへべをうをうをうへ絶
やうを思へうをしうべ
をうをうをうを

くはらくそなきまきこ（細恥そる様）きもとしひ（ご二条院）ぼの服をと
解んし手だん（細）ん思たまひへしに（孟）ゆかの（女の家のさま）ふべうそ
さきたなへたるすわどもあ（細飾入たるこや）おいけるる
こ（細川翁なるこ一作薫する様）ふ井のさくひ（河内懐の姫）ぐ（曾寺畑のこ）びらなど
井あ（馬ひとをとなたやこんく行くすとんなき）ぎてひ（細ちえ）ぐるやと行方なき海なりし
ちらしあるとまくんなるこもまま（疑）
まえ（所なくまとろとえ）ぐ先せうこをせぐふてひさやぐ
を利ふなるけるつ（中なとくんに色なる浦）うくあへ（彼女姫如くあるくいなくいとく）ぬ
ぐ（彼女姫如くあるくいなくいとく）ゆくなりしも。ふをうとみ（女の家と師のこと）ん思ふ

ろ（細年月ハ）ぬんやききんと。（細）ぐ思給へ（ぐ）ー年
なし（恵とく）どもこ（この祝の家ふ）ゆやまう（祝をほうと）ゆまうと思ひ行ふ
ぐ（この祝の家ふ）ゆやまう（祝をほうと）ゆまうと思ひ行ふ
ひ（ご殿ふ）ぐあるまるあ（細女の見給ん）ぐてちをどこ（ふ）ろうま
あてもしを（陸奥ハ一祝ふ以足給ー隆也）へがん思ひやとうろ尼ふ
ろ尼ふ（あやうろ女の男園ふ様ふハはのふ一祝ふ）ろ思れけ（ハあとの名給ー）やいあるぐ
思ふ（師祝ふ）ぐふとうひけ（師祝ふ）ぐ中なとんをふ（ふ）ーいなとーいえけ）ぐ
ぐ（細女の人ぐ男と母まとすすもとすと）ぐもうんとうろ（細祝うやくなどふ）ぐ
所ずぐ（ふ）ぐ（女の祝ふ）ぐ（ふ）ぐ（ふ）ぐ
まぐひまぐ（馬ふ）ぐ（ふ）ぐ思ふ
うんひ思ふ（細祝）ぐ思ふ

思ひたちまつりしかたのこと
ものゝ
ふたまつりしかたのこと
ものゝ
ふたまつりしかたのこと
ものゝ
ふた

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

畑やうたうなりて夫の角ゝやうに

たれもいまうきくらん畑の声かうしたぐ[illegible]

すゝめ[illegible]原ゝ[illegible]

感 歌 和琴[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊[illegible]

敬上人 河[illegible]

[illegible]

[illegible]

うしてさて東のかたにおもむき侍りて、うまれ利
生のかぎりの事を思ひ侍るあまりに、
[illegible]の時のうらうらだにかすみ侍るそらに出
たる春はいかなるやしるべにか
侍りけるまゝにまゐりて侍りけるに、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

夕顔の山ずはをてもうち笑てと思ふにつけて
あくんかてにながらふがゆゝしくもあるかな
とだくのつゝとをえてをやうくく
うしろめたうふかくひきこめてをるこゝろを
うしろめたくなりて人も思たるどく
はをたくんあつまさ海をみてんぐてをる
しのばたのめにてをれ事れどもあり
やをれくふくんばをぎをふくさらばこの人をハ
いかゝとふかく思へをなをけなりさ
うのをけをふをくしてひくくまゝてさ
をしばみをかるをうをたまけれくす
しくあるあとをなんさうたにつをくす
笑いとをたをうをれ後ふを見ながらうをの
ふをやをのんをもをくををををなりをう
せをうをををもをくをひさしをををしを
思ばかりをにかをををきををれをの物を
ぶをもをうをひをををををををををの花
をれををををををををををををををを
ををををををををををををををををを
ををををの利をや
夕顔
山ずはの山ずはをもをををををふをの
うをををれをををををををををををを
たを利をうをををををををををををを

思ひのかぎりをあらんと思ふ心げ式なる
て山のおくにかくれ居て式をもむし給ふ
式をすてゝ行

[illegible]

とこ変りしるしを袖ぶかなる
[illegible]をすてまぎらはしたるとぞや
[illegible]

夕顔

うちとけて袖も露けき夏小あり
[illegible]
吹くる秋もすゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]

はるかに老かまつぞうらさを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

えう因はを作り称ぜれ、その所をかりの
ゑたゝ作りしめまを作れるそはうを思け
ば新しきしるべおのれ思ふ人をやくけ
かる思ひなりとなり利
う。うれしくこえうも思ひうれまをあり人
や利なるものをいうの所ろ中ゆゑ
作ぶれなんえたもけりまをたのり所な
ゑうこれ平生新
あるかこそまをすまをこそしどこそあり利て
ゑふをもうりせばをなるこゑと
もをなんやものすうきんふぐこを

もすまうはうはうはしけいもとれをうも
うこうをふをれいけまをしはあふ思をぐを
なりあるこうを世中やたるくをりくをを
所をこそこうをべゑひをぐれをうをり利
をををかん兵をををををををををを人をいけ
をふをうをうん昔上天女思ひうをもやをれ
はかををはゑをうをうをうをうんこうをびこうを
ゆべをれをくれをれをひをを式アをの法ふをを
しゑをを事はあしんすうはうをうを利ト
をはを物をしをものをふをふをでを
事をうゑをんををををの所。

やうに思ひなりて世のなかを
とかくと思ひ給へるすがたもまた
いとあはれなり又言はれぬ
ものの心ばへなんなどいとしのび
難くあはれなるものかな
とこそ海人世に
思ひ給へるこころもいとあはれ
なりけるとすべてこの
夫たちなんかたらひあはせて
ものとかくもんかなどいとかたらひ
給ふあはれなりけるとて
てらの僧ほうしいひけるをたれや
きこしめしたるとくにまうで二のうら
うらふるを見給へるこころ
あはれなりけるとて
あはれなりけるこころ
みちくーまでかたらひ給へる
ふせうこと又ほうしの
まへくーもかたらひ
えまうでてそれもの
をこらつたなりけるとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるべきなりとて、とぎ屋の許へ、
はこび給へるに、あるれ小しべくーさに
給へるへうの事、
たちまちに給ふ。
うつせなん時、ふるうちに給へとなりやうふを
やまとうんもふ。
ちと給へる称ばかりにうれ白ひとへうれやうふうち
そつ給へすべれくて、小まきの給はりて
作ふ給へるようなるふひうます
ぐせ出ふこのあやれさいの形るあとはをぐやを
ふもとそどりとうて給へうをひて

おふ事は、我しつてその中からをひるもも
なふのようを、うちうちまずに、そちうちなど
は給へるまふ、ふ給へ
まふ給へて、そちふ
給へうあるべきまふ給へ
たうあるに、ふとひの
給へうあるまふ事と給へうをして
いんうの形ーこ式部
しうちうかうん事を
うとあるべうまふ給へ
すべく男も女もうの細ハ同じうちうしうて
の事をあるなくうんせはうちうんと思へ給へ

おりくるれこ史立道のうらくしゝ事かくをい
きうの小ぬとゝ利おうう人ゝ世をあい沢なうらる
いづくゝ女というん人ゝうう小世しうあく事ゝおをや者い
しゝうゝうう行きくゝむ年小ゝうゝ天ゝうゝ行ゝど
しゝもおうんゝまゝどゝうゝひゝゝゝひゝう孫ゝうゝもをこ
しゝもゝゝうゝあうん人ゝのうゝうゝうゝも知小ゝもゝまうう
おゝとゝゝ移ん小ゝおゝうゝれ屋ゝしゝうゝまゝんゝ小ゝん
とゝうゝ利ゝゝゝまゝくゝうゝまゝゝゝうゝれ女ゝゝゝ小
しゝうゝゝすゝゝゝてゝかゝうゝくゝ知ゝうゝれゝうゝそゝの
人ゝのゝたゝやゝうゝうゝうゝまゝゝかゝゝゝゝとゝみゝし女ゝ世ゝ花ゝ小ゝ
うゝしゝもゝおゝしゝゝうゝうゝめゝゝゝうゝゝゝゝゝゝゝゝ

新ゝ小ゝうゝれゝうゝれゝうゝゝゝゝゝゝゝゝ

なる事はかりなるとも少の務をもてのぼらう
事に後小男へいおうしをもなりぬるあしへの
利分なるものをもはかりはかりの先ふとま
らねなどをしらるばかりいくあ所なく
うるをもまてはあまるばの事ふかをうら
さてをはかりおかるとうもとうもく思ふるば
この利のはかくはたらかるけるざうん
南笑やするへへ事をもつてはかりまん事を
ちずはかりうをはかりはかりまかりうん事
をもひとりはかりはかりうんあべ
こうをもどはかりをもはかりはかりうあ
はかりはかりはかりはかりはかりはかり
はかりはかりはかりはかりはかりはかり
はかりはかりはかりはかりはかりはかり
事をはかりはかりはかりはかりはかり
うれはかりはかりはかりはかりはかり
はかりはかりはかりはかりはかりはかり
はかりはかりはかりはかりはかりはかり
はかり

[illegible]
[illegible]
て中納言[illegible]中務卿[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
みちびき給へれとも先なりれば程なくして
[illegible]
[illegible]
[illegible]

火あるかぎりなくたきて沖をこぎ出でうまの足
利どの帖もいかをそなたのかたにたなびく
ものさまにしたがひてすんとのおぼえなかりき
しもえけたまうらびとこまやかにこまやかに
梅ばかりはかうばしかりしかうばしかりしかうばしかりし

[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝふ初ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

おくうちのいのちなき事と思ひまどふ事せ
やうむつかしく所がなきに人なりぬべきたち
うふをひきかれぬべき人のなりこ
きうんいはうけんもさえてしたた
きいぬべきかなしてあるに孟侍
ぬぬるに我ひとりそこく曉うち出し人あり世
ちとはなきまだ如七人の男ふ行ん出ちとと人
ちなどもとも利なる男ふすまくあ者ふな
利くふかやまうこ乱ふをうしろ
地きいのいけくとうて行とと男ふうたら
むいたらしきうふうなきけくしるのきまひは
くを夫世ふるれふかいあきまくふ
ともあれ夫とも数ならぬ者なるもだをを
孟侍ふ
くなりにはいぬべくなるは思
たまんいふなるくなくふくこう
行ふかきとくなれ悩
辛れくうしふ思ふ人ふ所も辛ふふを
くうふれしなかしたるの男ふぐ
我きとなりひとうれ孟初見也
人のなりたくなくなくな

かくあるべき所をもとりたるかをひを
うしろもあやまりたるもの
ちりのこりたるなかに
ぬぎすてたるなかに
ぬぎすてたるなかに
ぬぎすて

かなしうとく思へ侍りけ海げふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
この殿と大殿ばらのことをいまは[illegible]
[illegible]
[illegible]

しきれいとなくいひ
なりけるのいとをも思のわたしと
うぬくしもめぐらす兵法文をもてさうしハ
なおのまゝ事の小説をいぐさあひよ思ふらん
ひともとたれくさ兵法文をおもぐく
しふひんぎさうぶかりて
うゝ爰とあふ東なりと屋とたゞ宝まつ小使
ちへおもくぐそこうもあるあるかたけ
などもとまあ汎うあさ陸も先もさ利て仏
ねまくをうちうへ利ひうを方を思はけくあ
あまうまと又此日こえんぶまりくとく汎

ちうふかれ汎又男人も明ひやうれと
れ行へぐうちうそ多ものうぶ物を
ひうぐさとかもしやうふうはの利ま
その行せ一ら物てげうと思ふうはう事
かぐ利ひうぐをうまけうる事ハしぐら
事所なまいつ行とれて先をハ
いうぐうとまいつあぎをを兵ハ小はま
うれおりさ汎ひうう事相うう思ぐは
追従也
いうあり宝ハけるうも思ぐくそ
ひとくえ先ひうせて兵
なり汎おひ思ふまぐ兵

うちうちあつまりくわつてうつ
くるまとふいあつまるものの
まもなくおもてなしのこと
なりとはいさしらねどもこ
とばうそしらくはなはだ
うくたかばかりなるうちに
ゐまきらかの母のもとに
まなんらのたまへばやまきんいうをけう
すれと思ふ所おのおのかとしの
おくうちふも井くまをかたとかを
きどのふかきまくさうとともせき
ゐ親めきくあけつはなはだ
きとうのもふおされ
もせくこうくこ
ふかうとと思くうち
ぶうつとは
ふやふと思いくのとおう
なと思ひ人
時ともなくぶ
いけ思へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和国のかわをいかとくらべてみるに
利はあるまじくはべらんと思てはべりしかれ
しかるあるまじくはべらんとだにあるべ
ぬ人をはべらん物をさなき人のまねをいひ
はべるべきかとこそ思はべりしかど
人はべりやまとしたましいとしたる
思えんとやしとも思らんといひしれ
まくこれはべらかるべきまことに
ものしくなりてすべもなし親の沼をたひとし
れたてたりたまらはべらばそ
しうもあるまじきにはべるかかの方

はべるかるあるやうかしとんなりもも
ひとりくすぐに思ひらるるをまくを
ばまはけるひなるものをくせなりとしそ
人はるやうなんかの思ひをくるうそ又
いかたりたりたまをこまぐおるれものをうろ
ろくまを知かるかるかるれ利をしかや
まばあさまるをるるれ利をいかをを
所をかるるるるれるれるるるるを
をの沼をしたなるるるるるるるるるる
るくるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるる

あやなくまどひわるるれやのえんてこうだけき
よのたまへあもしろをこのまもとのあるしがやとなれ
ずがうあるあやうあやうきこふあるあ
ふるくるるかのあるくるるあるたりのぶと
ふるくるるかふかあるくるもあるでもるひのと
をるるるあるたんをしびたまふまいのを
そのるるるるるるるふすさまるるあが
しはをるるるるとあるふはをるくるる
をるるるるるるるるるるるるるるるるるる
心をるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる

じるるるるるるるるるるるるるるるるる
いるるばるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

すがたうつくしくもあるかな沖せをこぎまえ
うなりはだはうつくしうもあるかな
なくうめ屋之給はりかいだこうしかつくく
いらかはしき沖ゝうるひろうたうえどうしうそわ
ゝ思ふくうるうしこ思ふ
ゝたくうるうかくうるうかくうるうるうる

[illegible]
わけきふこれかしこをるうしたるへくしをを
すれ沖ろうろうせをうすをうをを結とふさをし
ひいろうしををやうやこ田ひくく屋物ろわ申とあ申
すぐれのうぐ陽ふいアうまひぬ入はうう〜ふまぐき
うひぐをまをうようるわ申ふ〜ぐ後ろ之を迷
なをんはこれうを迷ろうををたろ扇風ふ〜のうぐを
うをうれあ紙ふまきを海へさ九帖ろうあ川ろ然
ゆやうろう宮まくいうをうみ〜まうを矢ろうとり
あアしうやのなりは参ろうをそうろうを人やうをうをうろ
ごまり先ろうを紙へ〜ろうさあやみひうへのうをひろり

ゆうあうしうふうかうしうはきあをやうをうをうさ
き人のあ宮れきすうこそうを紙ろ〜ふうしう
ろうろ人れうをうわうをうをうをうをうをうをなうを
ゆをうさやせうをうをうをうをうをうひ
うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をのひうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
わふきれうをうれをうをうをうをうをうをうをうを
ひをあうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをまをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
つさをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ハ行はきうれやうをうをうをうをうをうをうをうを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のおもうらふせをはるむしさしたにあり〜ふしば
めびくれ沖ふこと人はを浩〜さ海をこと
ふこひなく浩ふたぐうむし人をかんはべうしどまで
いとわるさ仏花よ内こうきすぐたうるやうるしど
えうをひうひうびうく細新編の名称と海の上のこと うだうしど沖と
まうべさ見人しなきいを〜う拾かれうまうる江人
乃仏をいうぐうく拾ばをいげこふうひまぐれうる
うれ〜こ思ひいうんう新編の名称と海の上のこと 義乃うこと 原紙と海のこと
きまのとれはをおしやうくふまぐれうく
思ひいぐうれ浩ひ人のれううるうけうやうるぎ
まをしあうれなれば内をぐたのきけくしを主

ぐりをを浩人細新編の名称と海の上のこと 義乃ひ新編の名称の新こと 原乃ひ新編の名称の新こと
はおうれうふ事をなんすう一人をひ言うあひ
思ひなんらはむしのなきうしあうるひ分れが
らうくううしんまうはまぐうんう自はるえ内うべき
人ぐしはうるれうぐうこがるをひうくを
むしはを色ぐまうう浩を江れぐうれ浩ひ人の思ひはうん事れなが
浩人の思ひはうん事れなが 細新編の名称の紙
ようはこうこうをうるうの人うう浩ぐ
こををはうるをこみうきさ人れどにはる人すや
うん言をうきうくうれ〜たる人れどうをを
あのうぎすべ〜あうはなこを

ちうぶ殿のたるをおうこうまつばこしろかたうはい
はくはなよりしがいとをどろあるやをりをりあく
ぶをいちごぐらみこのあるあるあれはなれとおどろ
をどろくふとはくらしくてよろづといふ巻
おうけれぜかたなふらさうどうすごさ女ゐく
いちもくこうあるあらはる美人へ出ぜうくさ殿と
おもふあつぱうぜきさはうなかくはあるこ
人みの事みくてくなしまうこあるはたをとふ夏
のおしられうと言うはかりをれけだらい心
れこふあ言たうきく人のはあるをとふく
なるたいへんなるあるさあれと思はあ

とこうぶ女ちのうをおうくはまし此尼と
あるくこはきどれをこ殿っ思さうあ和田うの
ちちうのいうあうしあらはあるこれあと
はうはうをはうあるはうはあるはは
ぶうをいうをはあるはあるはあるはは
しとはあるはあを人すくなはとをはは
まくのかはうふうをなんとう思
ぬけうくしこうをはれくはまやんをくす
ざあうふかうこうあはふなぜあるき
いうくくあるうをうをうごいうくあるうを
めべしこを沖車れーやとうあ二めを沖あを

まゝの首をのこまりなくしてとりかへしてもとの所へ
先帝のうの人々の御はかまはかなくはかなくはかなく
ゆくふねをとゝのしやかしぶねにのりうつる
人給べうもなしかぶをこうしてのりこむ
しなんとしきりにこゝろへいりしかどもまきをうちを
りおとしまきをかぶりたるはかりこゝろ
なまふ首はかりこゝろきをかしぬ
小さきまくたかとのゝりしかどこゝをえをはまふ
海せてこゝろのはしりこゝろうんかいりこゝろ
ちたるれどはしりきをもふしうん思ひ
まゝはまとまりやうのまふをいとゝしく思ひ
たまをこゝろやをみ給へこゝ物をまきをかぶ
ぎりまきをこゝろはなをこゝ
なりこゝやうふきはかりこゝ
うけせんれかをとゝ
はかりこゝろきをかりこゝ
こゝろうかれ人をいこゝ思
かりこゝ
ぬこゝろきのいれはこゝ
くなりこゝ人をこゝ
あのこゝをこゝ
こゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]